

東日本ユニオン よこはま

J R 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/ 松田 和秀
編集者/ 教育・広報部

第6回 定期大会開催

JR 東日本労働組合は7月14日、東京都・ホテルラングウッドにおいて第6回定期大会が開催しました。

中央執行委員会を代表して佐藤中央執行委員長は、6月18日に発生した大阪北部地震、7月6日にかけての西日本豪雨と、東日本大震災以来広域災害になったことに際し、亡くなられた方への御冥福と、被災された方への御見舞い、一刻も早い一両が取り戻せるようにできる限りの支援をしたいと冒頭に述べ、私たち東日本ユニオンは「労使共同宣言」に組織された労働組合でなく、JR 労働者の利益を守るために、JR 労働者によって組織された労働組合である。その上で2018



年3月29日、組織の前身である東日本鉄道産業労働組合が1987年9月24日に会社と締結した「労使共同宣言」を労使合意の上で解約し、「一つの労働組合のみと締結している状態が、他に誤解を与える可能性があることを労使の共通認識」として合意・調印し、これからの30年を見据えたなかで、会社の中立保持、信義誠実の原則に従い健全な労使関係とする確認を労働組合として東日本ユニオンが最初に行った。このことは「新たなスタート」という前向きな決断として、運動のさらなる原動力とすることを全組合員で確認したいと思う。本部はこの新たなスタートのもと今やるべきことを明確にする目的で、6月3日に「全機関拡大代表者会議」を開催し、会議で確認されたことは、私たち自身が東日本ユニオンに所属している価値観を自分の口で相手に伝え労働組合の必要性和共感をつくり、全行動を組織拡大に向けることである。この確認を今大会の柱とし「安全の確立について」「組織強化・拡大について」「JR 連合加盟問題について」「政治的課題について」話され、最後に働き方改革法案が、6月29日参議院本会議にて可決され過労死や長時間労働の規制を、労働者を守る法案とすべく連合や地域共闘との連携を取っていかなくてはならない。今後この法案が会社施策にどう関わってくるのか、「エルダー賃金の見直し交渉」も含め、組合未加入者に対しても私たちのメッセージを発信していかなければならない。私たちは、今JR労働者のあるべき労働組合の集大成を目指している過程であると考えている。労働組合の存在意義が問われる中、組織の展望をJR労働者の大きな結集のなかに見出すこと、その思いを今この時間軸に全組合員と共有し担うことができるだろう。後の歴史の中で検証されるであろうと思う。組織拡大はその結集に向けた東日本の価値を高める取り組みであると挨拶をしました。

質疑では12名の代議員が発言を行い、横浜からは足立代議員が発言しました。内容(要旨)は、この半年で私たちを取り巻く状況・環境が大きく変わっていると感じている。横浜では2/3を超える社員が労働組合を脱退し無所属となっている。2018春闘では年末手当の悔しさをバネに要求実現に向けた全組合員の運動で、会社の一人勝ちを許さないJR労働者の春闘を職場から作り出すことを中心に全組合員・全職場から進めてきた。今取り組んでいることを知らない組合員をつくらぬことにこだわりを持ち取り組んできた。会社回答は低額で悔しい結果となったが、職場での取り組みで3名の新しい仲間を迎え入れることができた。横浜地本全体の大きな喜びであり大きな成果である。今職場で何をするのか取り組むべき課題が問われていると感じる。職場では労働組合に所属しない人が増え、会社施策の周知等労働組合に所属しなくても何も不利益は無いかのように見せ、労働組合の必要性を消し去ろうとさえ見える。私たちは何故東日本ユニオンに結集し運動を作り出すのか、自分にとっての労働組合の必要性をもう一度捉え返すことが大切だと思う。結集する組合員の利益を守る、労働条件の向上を勝ち取る、困った仲間のために皆が取り組むことを通じ、労働組合の存在価値を見せていくことが職場での課題である。労働組合だからできる色を前面に出し取り組みたたかいを分会・職場から組合員と一緒に一つずつ作り出していきたい。「エルダー制度」「乗務員勤務制度の見直し」等大きな問題もある。全組合員で議論すること、組合員と一緒に取り組むことを、こだわりを持ってたたかいを作り出していくと発言しました。

集約答弁(要旨)で生田書記長は、2月の第5回定期中央委員会からは大きく状況は変わっている。労働環境・労働条件は私たちにとってプラスになっているか。組織強化・拡大を通じて要求を勝ち取る、このことを目指すことを今一度ハッキリさせていきたい。情勢が噂に惑わされてはいけない。多くの方々には私たちの姿を見ている。労働組合として取り組むべきことを誠実に全組合員と取り組み要求の実現と組織拡大の実現を図っていきたい。労働組合として労働条件・労働環境を実現していくためには要求を作ることが重要である。繰り返しとなるが「要求を勝ち取るために組織強化・拡大をして、組織強化・拡大を通じて要求を勝ち取る」ということを合言葉にしてこの1年間共に奮闘していきたいと述べました。

今大会で大森中央執行副委員長が退任されました。お疲れさまでした。第6回定期大会を成功させよう!!

第6回定期大会

JR 東日本労働組合

東日本ユニオン

JR 東日本労働組合
中央本部

**8.25 横浜地方本部
お疲れさまでした。第6回定期大会を成功させよう!!**